

言葉の耳袋（1）

JOBA 顧問 教育アドバイザー

張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

（1）楽しかった日本語の勉強

ある会で、すばらしい話を聞きました。大学の先生をしているAさんは1年生から6年生までブラジルのInternational Schoolで過ごしました。当然、英語力はつきましたが、日本語力については確かめる機会もなく、親子共に不安を抱えていました。

中学校から日本に帰り、東京の進学校で有名なX学園に入学しました。入学直後の国語の試験で、Aさんは最高の成績をあげました。驚いたのは先生方でしたが、Aさん自身もびっくりしました。先生はAさんが外国でどんな日本語教育を受けたのかを知りたかったのですが、Aさんからは、期待したようなお話は聞けませんでした。先生は問いをかけて、生活の様子を聞いてみました。先生はAさんのブラジルでの日常生活の話の中から3つの特色を探り当てました。

- ①家庭では会話は日本語で、楽しく語り合う。
- ②お父さんが、毎日「ワラ半紙」に国語の教科書からの問題を手書きで作成しておく。翌日、お母さんは学校から帰った子どもに解答させ、指導にあたる。語句の使用例を用意し、いろんな人物になりきってその語を使ってみせる。子どもたちには、これがドラマを見ているようで、楽しい時間になったそうである。
- ③毎月最終土曜日の夕食後に「家族俳句会」を開く。全員が作り、全員が感想を語り合うが、できるだけ着想を褒めるようにし、楽しい会になるように努めた。

海外で生活して帰国した家族なら、Aさん家族と似たような努力をしている。いろいろな工夫したのに、期待したような成果はあがらなかったという声が多い。しかし、Aさんのように年齢相応に日本語力がついていたという家族もたしかにいるのです。その家族の共通点は・・・

- (A) 決めたことは最後までやり続けた
- (B) 日本語を学ぶときは、特に楽しい時間になるように工夫した

この二つは文字で見ると簡単です。でも、やり続けるには親の工夫や忍耐力が大切なようです。

帰国した親御さんから、伺った、日本語を楽しく勉強した事例を紹介いたします。



張江 幸男（はりえ ゆきお）

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問
前全日本空輸（株）海外子女教育相談室長、元三菱商事（株）相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭

（2）日本語と国語？

文の書き出しに、気楽に日本語の学習と書いてしまいました。ところが、国語の力が足りませんか、海外での日本語習得は難しいなどと、二つの語彙を吟味しないまま簡単に使われています。いくつかの論文を読んでみました。学者間ではいろいろな定義づけをしていますが、どうもしっくりしませんでした。たまたま、孫のっている朝日小学生新聞(4/7)に、国語と日本語という記事がのっていました。とても分かりやすい説明でしたのでご紹介いたします。

「国語と日本語」国立国語研究所 主任研究員 島村直美

辞書で「国語」と引くと、「日本語のこと」と書いてあります。しかし「日本語」との違いについては書かれてありません。

そのせいでしょう。国会で「日本語と国語はどう違うのか」という質問をした議員がいます。そのため、国立国語研究所内に、そのことを研究するプロジェクトチームが発足しました。7、8年前のことです。

はっきりとした結論が出ずプロジェクトチームは解散しましたが、筆者もその問題に興味を持ち国語という言葉の意味分析を行ったことがあります。

それについては論文で発表しましたが、その結論を簡単に言うと、国語は日本語の美称で「よい言葉」ないし「よい国の言葉」という意味を持っているのではないかというものです。

そのため学校教育では日本語ではなく国語が使われているのだと思います。台湾や韓国でも自国の言葉を国語と呼んでいますが、これなども台湾や韓国が第二次世界大戦前に日本の植民地であったためばかりではなく、国語が「よい言葉」ないし「よい国の言葉」という意味を持っているためだと思います。

学校教育で国語という言葉が使われるのは中学校が早く、明治5年(1872年)がその初出です。明治19年(1886年)には師範学校でも使われています。小学校では明治33年(1900年)が最初です。西暦2000年は小学校で国語が使われてちょうど百年になるというので、国語教育の学会ではそのことを記念して盛大なシンポジウムが開かれました。

国語という言葉はナショナリズムを連想させ、そのため学校の教科は国語ではなく「日本語」や「言葉」にすべきだと主張している人もいます。しかし、そういう意見はまだ少数で、当分、「国語」が使われそうです。